

平成
22年度

医薬品包装 セミナー

医薬品安全の視点から見た医薬品包装

プログラム

日程 平成23年3月25日〈金〉

会場 (社)日本薬学会 長井記念ホール

主催 社団法人 日本包装技術協会 関東支部

時間	講演内容	講師
10:00 ▼ 11:40	『医薬品流通バーコードの動向』 1. 医薬品流通バーコードのインラインシステム化について ①コード表示の現状 GS1 DataBar (RSS Symbol)、(GS1-128) ②コード表示の実現方法 ③.1 機器 (印字機、検証機、検査機、リーダー) などについて ③現在の状況と今後の課題 2. PTPアルミ箔のバーコード印刷 「医療用医薬品へのバーコード表示」のPTPアルミ箔を含む特殊包装形態への適用が目前に迫っている。 これまで医薬品メーカーとPTPアルミ箔メーカーは、様々なサンプルワーク、検証を繰り返してきた。 バーコード印刷を付与したPTPアルミ箔においては、製造するサイドに技術的課題、工数増による生産的課題、そして使用するサイドでは設備的課題、品質的課題の解決が急務とされている。また、医療施設での対応実績は少なく、その問題の深刻度は未知数である。 PTPアルミ箔のメーカーの立場から、これら憂慮すべき課題について述べるとともに、解決策を紹介する。	1. カナエエンジニアリング(株) エンジニアリング 1グループ CSAT担当課長 北垣 雄二 氏 2. 東洋アルミニウム(株) 加工品事業部 群馬加工工場 生産技術G 課長代理 久保 博司 氏
コーディネーター	(株)カナエ 東京支店 営業一部 部長 大日本印刷(株) 包装事業部 開発本部 Mプロジェクトリーダー	小濱 博信 氏 岩村 泰造 氏
12:40 ▼ 13:50	『後発医薬品と医療安全～市大病院の考え方と実際～』 DPC適用施設においては、経営的視点から後発医薬品を積極的に導入する施設が増加している。 また、DPC非適用施設や薬局においても、今年度の診療報酬改定で後発品使用促進策としてのインセンティブが付加されたこともあり、今後のさらなる使用促進が期待される。しかし、医薬品は適正に使用されてはじめて有益な効果を発揮するものであり、使用方法を誤ればときに甚大な健康被害をもたらすことから、その導入にあたっては価格やメーカーの信頼度にとらわれるのみならず、常に医療安全の視点を忘れないようにしたい。医療現場においては、先発品との切り替えなど後発医薬品の導入そのものがリスク要因となっており、これらを問題視する医療関係者も少なからず存在する。横浜市立大学附属病院（横浜市金沢区、631床：以下「当院」）では、そのリスクを最小限にとどめ、むしろ医療安全に貢献できるような製品を進めている。今回は、当院における後発医薬品の導入とその考え方について紹介したい。	横浜市立大学附属病院 薬剤部 担当係長 小池 博文 氏
コーディネーター	藤森工業(株) 研究所 グループリーダー 第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装研究グループ長	鈴木 豊明 氏 片山 通博 氏
14:00 ▼ 15:10	『人間工学からみた医薬品包装と取り違いにおける ヒューマンエラー』 厚生労働省の事故統計によると医療事故の半数以上は医薬品に関わるものとされ、その多くは誤薬、すなわち処方箋と異なる薬品を患者が服用することに端を発しているとされる。これは医師から伝えられる処方箋の情報に基づいて指定された医薬品を棚から取り集めるもので、近年、個々の医薬品のバーコード化を通じた自動化も期待できるが、現場ではまだ一部に留まり人力依存によるところが多い。高い生産性とともに絶対的正確性を求められるために、作業後の監査も二重にするなどしてこれを維持しているところもある。一方、医療従事者は医薬品調剤時の薬品識別に薬品外観情報に頼るところが多いことを我々の行った視線計測実験から明らかにした。しかも医薬品の特定はわずか1秒の視認時間でなされていた。本セミナー講演では医療従事者がどのように医薬品包装に表記された情報を読み取っているのかを研究事例を通して紹介し、外観類似の医薬品が多く存在する中におけるヒューマンエラーの構造を解説するとともに人間工学の視点から医薬品包装や表記に求められる今日の課題について探求する。	東京都立産業技術 高等専門学校 医療福祉工学コース 准教授 三林 洋介 氏
コーディネーター	(株)協進印刷 専務取締役 中外製薬(株) 製薬本部 生産工学研究部 副部長	広瀬 康男 氏 山東 義明 氏
15:20 ▼ 16:30	『医療現場が望む医薬品の包装と表示』 医薬品に関連した医療過誤は、重大な事故につながる場合が多い。その一要因として、医薬品の包装・表示に課題があるとする例もある。 本講演では病院薬剤師の立場から医薬品の入庫、調剤、患者への投与までの現状とともにリスクマネジメントの実際を紹介し、さらに医療現場からの医薬品の包装・表示に関する要望について述べさせていただきたい。今後の商品（包装・表示）開発の参考になれば幸いである。	北里大学東病院 薬剤部 北里大学 薬学部 講師 平山 武司 氏
コーディネーター	第一三共(株) 製薬技術本部 製剤技術研究所 包装研究グループ長 藤森工業(株) 研究所 グループリーダー	片山 通博 氏 鈴木 豊明 氏

講師のご紹介

■北垣 雄二 氏

カナエエンジニアリング(株)
エンジニアリング1グループ
CSAT担当課長

カナエエンジニアリング(株)は、(株)カナエの100%子会社で主な業務内容は、「包装ラインの保全管理」「包装機械の設計、製作、アフターメンテナンス」「輸入機械の販売、アフターメンテナンス」である。その中の輸入機械部門で「CSAT：シサット」と呼ばれるインライン印刷を担当している。日本包装技術協会をはじめ、医薬品関係の団体に講演、執筆を行っている。

■久保 博司 氏

東洋アルミニウム(株)
加工品事業部 群馬加工工場
生産技術グループ 課長代理

1993年 東洋アルミニウム(株)入社
アルミ箔加工品事業の開発部門・生産部門に携わり現在に至る

■小池 博文 氏

横浜市立大学附属病院 薬剤部
担当係長

平成7年3月 東京理科大学 薬学部卒
平成7年4月 横浜市立市民病院 薬剤部
平成10年4月 横浜市立脳血管医療センター開設準備室・(同)薬剤科
平成15年4月 横浜市役所(衛生局地域医療課)
平成16年4月 横浜市立大学附属病院 専任リスクマネジャー
平成17年4月～現職

■三林 洋介 氏

東京都立産業技術高等専門学校
医療福祉工学コース 准教授

平成2年 日本大学大学院 生産工学研究科 管理工学専攻 修了
株式会社エトワール海渡 主任
平成6年 神奈川大学工学部経営工学科 東京都立科学技術大学 非常勤講師
平成18年 東京都立産業技術高専 准教授 日本人間学会理事
(有資格) 博士(工学)
認定人間工学専門家
(著 書) 初学者のための生体機能の測り方(日本出版サービス)、人間工学百科事典(丸善) 分筆

■平山 武司 氏

北里大学東病院 薬剤部・北里大学 薬学部 講師

昭和59年3月 北里大学薬学部卒業
平成13年3月 明治薬科大学大学院 臨床薬学博士課程 修了
昭和59年4月 北里大学病院 薬剤部 入職
昭和61年4月 北里大学東病院 薬剤部 配属 現在に至る
(有資格) 博士(臨床薬学)
感染制御専門薬剤師
緩和薬物療法認定薬剤師等

開催要領

日 時：平成23年3月25日(金) 10:00～16:30

会 場：(社)日本薬学会 長井記念ホール

東京都渋谷区渋谷2-12-15

TEL.03(3406)3326

参加費：会員：19,950円(消費税5%、テキスト代含む)

同時に3名以上でお申込みの場合には、

割引価格として1名16,800円

一般：26,250円(消費税5%、テキスト代含む)

定 員：100名

お申込み方法

■本誌申込書に必要項目を全て記入の上、FAXにてお申込み下さい
協会HPからのお申込みも出来ます。協会HP:<http://www.jpi.or.jp>

■申込みされた方には後日参加証と請求書をお送りします。

■ご都合が悪くなった場合、代理の方の出席は差し支えありません。
(当日受付にて名刺を頂戴します)

お問合せ並びに申し込み先

(社)日本包装技術協会 関東支部 医薬品包装セミナー係 担当：竹内

〒104-0045 東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F

TEL.03 (3543) 1189 FAX.03 (3543) 8970

e-mail:takeuchi@jpi.or.jp

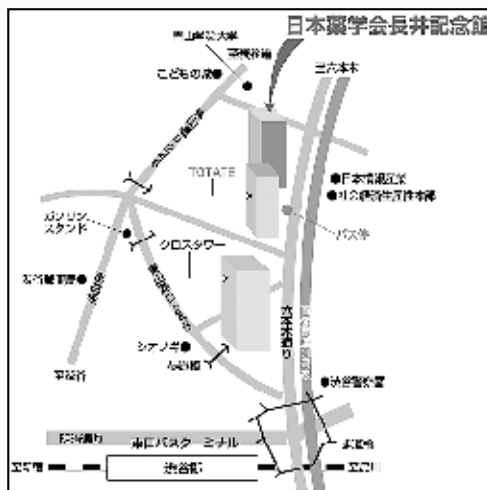
平成22年度医薬品包装セミナー 会場案内図

■会 場：(社)日本薬学会 長井記念ホール
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-12-15
TEL. 03-3406-3326

■交通手段

JR山手線、東急東横線、東急田園都市線、京王井の頭線、地下鉄銀座線・半蔵門線の渋谷駅下車

JR渋谷駅東口より、高樹町方面へ高速道路3号線沿いに8分



個人情報の取り扱いについて

1. 個人情報は「平成22年度医薬品包装セミナー」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は、開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
2. 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

平成22年度医薬品包装セミナー参加申込書

社団法人 日本包装技術協会 竹内 行

FAX.03 (3543) 8970

No.

会社名						
所在地	(〒)					
電 話				FAX		
参加者	氏 名		所属役職		e-mail	
	氏 名		所属役職		e-mail	
	氏 名		所属役職		e-mail	

講師への質問事項

*当日のプログラムの質疑応答の際参考とさせていただきます。

講師宛